撮影地: IAMASイノベーション工房
(岐阜県大垣市　ソフトピアジャパン・ドリームコア)

編集・発行
サンメッセ株式会社 コーポレートコミュニケーション戦略推進室
株式会社ファイブ・シーズ
E-mail ircsr@sunmesse.co.jp

2016 Feb
Vol. 04

ご紹介企業
有限会社　大橋量器
インタビュアー:
サンメッセ株式会社　コーポレートコミュニケーション戦略推進室　岡部孝弘

全国シェア8割を誇る岐阜県大垣市の木枡。しかし、かつては市内に11社あった枡の製造業者も、需要の減少とともに衰退し、今では5社(2015年12月現在)となりました。
そんな中、常に斬新な発想と抜群の行動力で木枡に新たな価値を生み出し続けている(有)大橋量器・大橋博行社長。
今回のE! Talk'sは、同社新商品「光枡」の開発に携わった情報科学芸術大学院大学[IAMAS]小林茂教授を交え、大橋社長の木枡やモノづくりに対する思いをお聞きしました。

岐阜県大垣市から世界へ!
木枡をエンターテイナーへ!

大橋社長は元々外資系大手IT企業に勤められていたとお聞きしました。失礼ながら最先端のハイテクの世界から、いわゆるローテクな伝統産業への転身には、いろいろ戸惑う点もあったかと思います。その頃から今展開されているような「新しい枡を創造したい」という思いはあったのですか。

大橋さん:全くありませんでした(笑)。私は長男ですから、いつかは継ぐことになるのだろう、という意識がありましたので、家業を継ぐことに対してはあまり抵抗がなかったのですが、実際就いてみて現実を目の当たりにすると、さすがに不安を感じました。売上げも昔に比べると縮小傾向にありましたし、何とかしないといけないなと。そこで、まず全国の酒造メーカーに直接売り込みに行くことにしました。ノベルティやプレゼントとしての使い方を提案したわけです。基本的に木枡メーカーは問屋との取引が中心ですので、このような飛び込み営業はあまり例がなく、珍しさもあったのかもしれませんが、それが成功し、売上げも順調に伸びていきました。

**新しい顧客を創造された、ということですね。
それがまず大きなブレイクスルーだと思います。**

大橋さん:むしろこの世界では素人同然でしたから、それが功を奏したのでしょうね。問屋業界とのつながりも私にはありませんし、まさに「知らぬが勝ち」だったかと(笑)。とはいえ、それもいつ

カラー枡

2012年、ニューヨークの「国際ギフトフェア」に出展した際、世界的なファッションブランド「ポール・スミス」のバイヤーの目にとまり、その店頭にて販売された。

かは頭打ちになります。業界全体の冷え込みによって酒造メーカーさんも体力がなくなり、ノベルティ等の予算も削られるような状況になりました。ここでまた考えたわけです。「どうしよう」と。その答えが「ノーと言わない営業をしよう」でした。そこからは試練の連続です。従来からシルク印刷の表現などで他社との差別化を図っていましたが、さらに形状にもオリジナリティを求めていくようになりました。通常、枡といえば正方形のものですが、それに捉われず、長方形や五角形、さらには八角形など、さまざまな形状にチャレンジしました。それもお客様の要求に対し、ノーと言わない、と決めたからです。それに伴い、当社の技術力やノウハウも向上していきました。この時のチャレンジが今につながっているのは間違いないですね。

そしてデザイナーや異業種とのコラボレーションへと発展していったわけですね。

大橋さん:そうです。いろいろなご縁があり、名古屋周辺で活躍するデザイナーさんとのコラボレーションが実現したのですが、これは本当に刺激になりましたね。やはり自分達だけでは発想に限界がありますから。この取り組みで生まれた商品はグッドデザイン賞をはじめ、さまざまな賞をいただくことができ、それも大きな自信になりました。そのような経験を経て、国内だけでなく世界にも「大垣の枡」をアピールしよう、という気になりました。その一つの成果として、世界的に有名なファッションブランド「ポール・スミス」のショップで商品が販売されることになったことは大変光栄であり、幸運でした。

そして最近では、IoTとのコラボレーション企画として「光枡」ができました。地域で生まれたIoT製品の画期的な事例として経済産業省の「2015ものづくり白書」でも紹介されましたね。

大橋さん:IAMASの小林教授を中心に結成された「コア・ブースター・プロジェクト」に参加させていただいたわけですが、最初はここまで大きな動きになるとは思っていなかったです。「面白そうな企画があるから参加しないか」と誘われるがままに(笑)。これこそ「枡が光る」という発想は自分では生まれなかっただろうし、ハッカソンという開発手法やクラウドファンディングの実施など、いろいろなことを体験させていただきました。

プロジェクトの発起人であられる小林教授から見て、地場産業である「木枡」とIoTという、全くの異業種によるコラボレーションはいかがでしたか。

小林さん:異業種交流は、最初からイノベーションを創出するためのコンセプトとして持っていました。しかし、それは口で言うほど簡単ではありません。視点や経験、常識でさえ大きく異なります。そうしたものを乗り越えてコラボレーションしていくためには、お互いの良さを認め、協力し合うということが重要です。大橋さんは「枡が光る」という、枡の業界では非常識だったことに対して、常識に捉われず、ご自身で感じた魅力に素直にそれを実現しようと取り組まれました。これは、簡単なようで実際にはとても難しいことです。まだ誰も見たことがない製品やサービスを実現するというのは簡単なことではありません。今回、大橋さんはこの未知なるプロダクトの可能性に賭け、最後に世の中に送り出すまで責任を持ってやり遂げられました。勿論、他のチームメンバーとの協力があってこそではありますが、大橋さんの「製品化するぞ」という強い意志がなければ、絶対に成功しなかったプロダクトだと思います。

これまでにないものをつくる、という意味で、小林教授と大橋社長とは相通じるものがあると思います。大橋社長のご活躍について、どのようにお考えですか。

小林さん:海外や東京の成功事例ではなく、地方都市の一つである大垣の企業が世界的にも例を見ないものづくりに取り組み、そして成功したということは、かなり大きなインパクトだと思いま

大橋 博行 氏
(有限会社大橋量器　代表)

岐阜県大垣市出身。大手外資系IT企業に6年勤務した後、1993年に大橋量器に入社。2005年に法人化を行い代表取締役。同時期に直営アンテナショップ「枡工房ますや」をオープン。大垣ブランドの構築・認知拡大を目的とした活動の一環である、『大垣「ます」生産者実行委員会』の提唱者でもあります。

↑すいちょこ

→スラ

↑MAST

←合格枡

大橋量器の代表的な商品

2011年にグッドデザイン賞を受賞した「すいちょこ」をはじめ、ニューヨーク近代美術館(MoMA)のショップで販売されることになった「スラ」や、受験のお守りとして人気の「合格枡」、文中にもあったポール・スミスのショップで販売されている「カラー枡」のほか、動力を全く使用しないエコな加湿器「MAST」など、多種多様なラインナップが揃っています。

▲コア・ブースター・プロジェクトでの「光枡」開発の様子　撮影：小林 茂 氏

す。そしてこのことは、次に続く人たちにとって大きな目標になると思いますし、今後それに刺激を受けた人たちがどんどん続いてくれることを期待しています。そうした意味でも、大きな一歩だったと思います。

たくさんのフォロワーが現れることを期待したいですね。ありがとうございました。さて、このプロジェクトから少し話が遡りますが、2005年にアンテナショップ「枡工房　枡屋」をオープンされました。これにはどんな思いがあったのでしょうか。

大橋さん:チャレンジを重ねていくうちに、いろいろ面白い作品ができてきて、どうせならそれを他の方にも見てほしいな、と思うようになりました。また当社は、伝統的な街並みが残る風景として大垣市の観光スポットとされているエリアにあります。しかし観光地と言いながら、これといったお土産もない。それなら枡を大垣のお土産にすればいい、と考えたのがきっかけです。2006年からはネット販売もスタートさせたこともあって、遠方の方にもご注文をいただいています。この頃から、自社だけでなく「大垣の木枡」を盛り上げていこうと、全国各地のイベントや物産展に出展するなど、様々なPR活動に取り組みました。

それはまさしく社業を活かした地域貢献ですね。ゼロから新しいものを創り出さなくても、前からある資源を見つめ直せば、その地域らしい素晴らしい価値を持ったコンテンツをうみだすことができる。

大橋さん:そうですね。そのためには自社だけでやっていてはだめだなと。今では大垣市内にある5つの枡メーカーと一緒になって活動しています。枡づくり体験や、枡酒列車などいろいろなイベントにも取り組んでいます。これもまずは枡の良さを知ってもらおうと思って始めたことですが、お陰様で好評をいただいています。地元に住んでいながら、大垣が日本一の木枡生産地、ということを知らない方も多かったのですが、徐々に認知されるようになってきましたね。現在「木育ワークショップ」というものに取り組んでいるのですが、そこでこんな話を伺いました。「ふるさと学習」という授業の一環で、大垣をPRするポスターをつくったそうです。すると10数人の児童から枡をモチーフにしたポスターがあったよ、と先生が教えてくれました。これは嬉しかったですね。

貢献といえば、木枡は環境面でも優れた製品だと伺いました。木枡の材料は、建材用ヒノキの端材、いわゆる廃材リサイクル商品だそうですね。

大橋さん:そうなんです。当社に限らず、どの木枡メーカーも端材を利用していると思いますよ。環境といえば、サンメッセさんから素敵なコーズマーケティングの提案をいただき、「カーボンオフセット枡」という枡を商品化しました。
これは商品代金の一部に、1kg - CO_2分のクレジット取得費用が含まれており、枡を購入していただくお客様に、自然な形で環境保護に貢献していただける仕組みとなっています。
「清流の国ぎふJ-VER」という制度を通じて、岐阜県中津川市にある加子母森林組合の活動を支援する費用の一部となるものですが、木枡はやはり良質のヒノキが無いとできませんから、健全な森林の保護・育成は当社にとっても重要なことです。また、「カーボンオフセット」という取り組みを自社の商品を通じて世の中にアピールできることも非常に意義のあることだと思っています。

小林 茂 氏

（情報科学芸術大学院大学［IAMAS］
産業文化研究センター教授）

愛知県名古屋市出身。博士（メディアデザイン学）。電子楽器メーカーにエンジニアおよびシンセサイザーのサウンドデザイナーとして勤務した後、IAMASにてプロトタイピングのためのツールキット「Gainer」「Funnel」「Arduino Fio」を開発。最近の活動として、レーザーカッターや3Dプリンター、3D切削加工機などのデジタル工作機械を活用し、地場産業と情報産業のような異業種から多様なスキルや視点、経験を持つ人々を集めてイノベーションの創出に挑戦する「コア・ブースター・プロジェクト」などを運営していらっしゃいます。

光枡プロモーションムービー
https://www.youtube.com/watch?v=faLQRzsq-x4

コア・ブースター・プロジェクト「光枡」

岐阜県内のモノづくり技術者やスマートフォン開発者などが連携して、最新のIT技術を活用した新商品や新サービスの開発を目指すプロジェクトで、2013年9月に始動。その第1弾の成果として「光枡」が誕生しました。光枡は枡に埋め込まれたLEDの光がスマートフォンアプリで制御できるというもので、クラウドファンディングによって出資を募ったところ、見事に成功。現在出荷に向けて生産中で、一般には2月にある「東京ギフトショー」（東京ビッグサイト）にてお披露目されます。

木育ワークショップ

木の良さ・大切さを感じてもらいたい!という思いから2015年11月より開催されているワークショップ。大垣市内の保育園・幼稚園・小学校を訪ねて、不良品の枡・木端を材料に、子どもたちに思い思いの作品を作っていただくものです。

貴社の取り組みがまさに地域に根づいている様子が伺えます。伝統産業というと後継者問題などで存続が難しいケースも多々あるようですが、その解決に向けた重要なヒントとなる事例だと思います。それでは最後に今後の抱負を教えてください。

大橋さん:私が思い描いている理想のシーンがあります。場所はドイツのとあるセレクトショップ。店内で、こだわりのありそうな男性二人が物見をしています。すると一人が店頭に飾ってあった枡を手にとって言うのです。「これを知ってるか?これは日本の大橋量器というメーカーがつくっている、「木枡」という酒器だ。とてもクールだろ?」…私は木枡を、そういうステータスを持ったものにしたいのです。そのためには、より枡にこだわりたい。確かに枡は現代では必需品ではありません。でも枡には1,300年もの長い歴史があり、今その歴史の先頭にいるのが私だ、という自負があります。ここで私が辞めてしまえば、その歴史も途絶えてしまう。「枡を粋で、格好よく。枡をエンターテイナーに。」これは我が社のスローガンです。これからも、もっと自由な解釈で、枡の新しい魅力を見つけていきたいですね。

カーボンオフセット枡

648円(税込)

売上げの一部は、J-VER制度という環境省の進める仕組みを通して、岐阜県中津川市にある加子母森林組合の活動を支援する費用の一部になります。

Company Information

有限会社 大橋量器

ホームページ
http://www.masukoubou.jp/

Facebookページ
www.facebook.com/masukoubou/

Webショップ　枡工房枡屋
http://www.masuza.co.jp/

直営店　枡工房枡屋

〒503-0908 岐阜県大垣市西外側町2丁目8番地
TEL(0584)78-5468　FAX(0584)78-7614
年中無休(※但し、年末年始・お盆は休業)
営業時間　平日9:00~18:00　土日9:00~17:00

編集後記

考える、やってみる、諦めない。夢を現実にするヒントを頂きました。

世界的なファッションブランド「ポール・スミス」に認められ、更にはニューヨーク近代美術館のショップにも陳列されるという話題の木枡。それらを創りだす大橋社長というのは、さぞかしエネルギッシュで、すごいオーラを出している方なのだろうと、若干緊張しながら臨んだ今回のインタビュー。大橋氏に初めてお会いして感じた第一印象はその予想とは少し違った「物静かで温和な紳士」。しかし、その印象はインタビューを始めてすぐに間違いであったことに気づきました。お話の中からも枡にかける想いや熱が伝わってきます。今回インタビューのなかで一番印象的だったのは、事業を拡げるなかで枡以外の展開は?と尋ねると「枡以外はやらない。そこはブレない」と即答されたことです。この揺るぎない、強い思いが、大橋量器の飛躍の源であると確信しました。

サンメッセ株式会社
コーポレートコミュニケーション戦略推進室　岡部 孝弘

「E! Talk's」では、毎号、読者の皆様にとって企業活動のヒントとなるであろう「いい(E)話題」を、Environment(環境)、Ethical(エシカル)、Economy(経済)などのキーワードを中心に、各企業、各界の方へのインタビュー(Talk)形式でご紹介してまいります。

本内容に関し、さらに詳しく聞きたい、各関連報告書作成の相談をしたい、等々、ご興味のある企業様は、弊社コンサルタントがお伺いのうえ、ご説明させていただきます。お気軽に担当営業までお問い合わせください。今後とも、サンメッセ株式会社及び株式会社ファイブ・シーズをご愛顧のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

本 E! Talk'sは投資勧誘を意図してご提供する内容ではありません。このレポートの掲載情報は信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された意見や予測等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。内容に関する一切の権利はサンメッセ㈱及び㈱ファイブ・シーズにあります。無断での複製・転載・転送等はご遠慮ください。

サンメッセ株式会社　http://www.sunmesse.co.jp/
Five Cs　http://www.fivecs.co.jp/